

## 検修庫の暑さ対策を!! 会社は対策の必要なしと居丈高…!?

8月28日に交番検査車両所の組合員が、酷暑により倒れ、救急車で搬送されたことは、「かべ新聞第13号」でお知らせしました。

新幹線地本は、この事態を受けて会社に対して「今回の事象に鑑みて検修庫の暑さ対策を検討するように」口頭で申し入れました。

しかし、会社側は「本人の体調の問題」「現場環境の問題という認識はない。」「特に対策は考えていない」と、現場社員の労働環境など全く意に介さない態度に終始しました。

## 労働基準監督署に指導要請!!

こうした会社の態度では、職場環境改善できないと判断した新幹線地本は、8月31日に品川労働基準監督署に赴き、JR東海に対して指導をするように要請しました。

労基署に対しては、8月28日の事件の説明をはじめ、この間の検修庫の劣悪な作業環境を訴え、このままでは、暑さによって倒れる人は続きかねないし最悪の場合は死傷事故もおきかねないことを指摘しました。

## 現場労働者の声に耳を傾けて 環境を整えるのが管理者の仕事だ!!

職場の労働環境改善は、本来第三者を交えずに現場の労使で議論を積み重ねて作り上げていくものです。しかし、今のJR東海は残念ながらそういうスタンスにありません。やっていることは、会社の意を汲み、労働者管理を担う御用組合の養育だけです。

現場の労働条件を改善できるのは、現場で働く労働者の声の基本です。

**安全で明るく働きやすい職場環境をつくるため闘おう!**